能登やさしいこめづくり情報

本田初期管理編

平成２９年５月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
ＪＡ能登わかば

〔今回のポイント〕

田植え後１ヶ月間の水管理が米の品質を左右します !!

活着後は、浅水管理で分げつの発生を促進！

なぜ、浅水管理が重要なのか… ?!

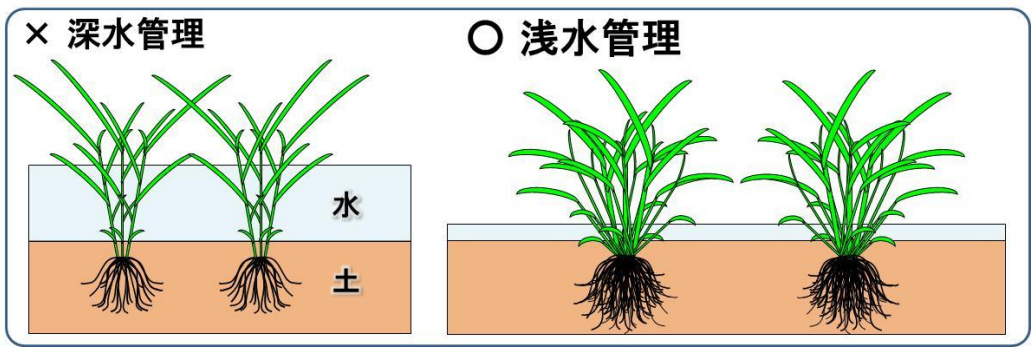
近年、長期の深水管理が目立ち、初期の分げつの発生が遅れています。

長期の深水管理は、藻類やガス（わき）の発生を招き、地温が上がらず生育を抑制したり、根の発育を阻害します。

また、分げつの発生の遅れは、最も重要な管理である中干し開始の遅れや不徹底を招き、登熟期に大切な役割を担う根の伸長を阻害します。

特に中干しの遅れは、遅発分げつの発生（右図参照）を助長し、出穂や登熟がばらつき、未熟粒による品質低下や屑米の多発生による減収を招くため、活着後の浅水管理を徹底し、穂になる分げつを早期に確保しましょう。

遅発分げつにより、穂揃いが悪く、登熟が不斉一　▼：遅発分げつ



有効茎の早期確保 ➡ 中干しの適期開始で乳白粒を防止！

1　田植え後の水管理（活着期）

田植え後５日間程度は、３～５㎝に湛水し、低温や風、乾燥による植傷みを回避し、活着を促進しましょう。

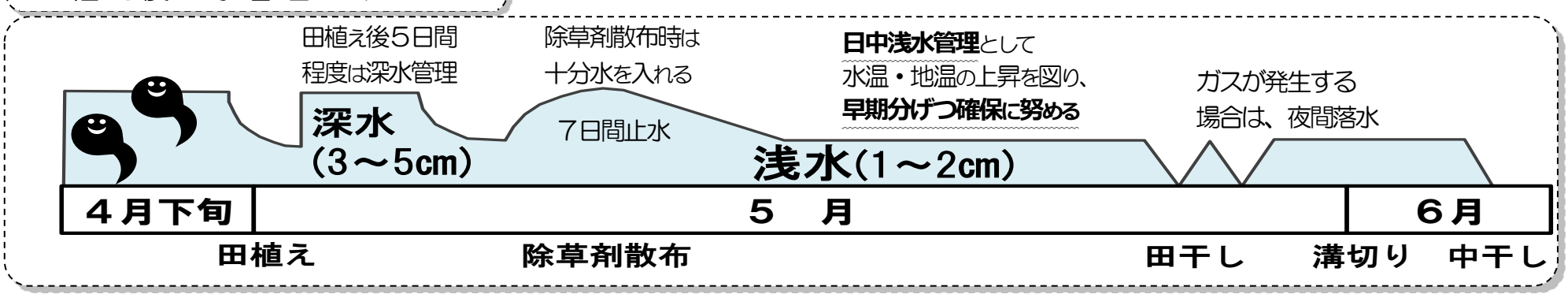
- 苗は田植え作業で断根され、吸水力が劣っているので、乾燥しやすい条件では植傷みが発生します。また、軟弱な苗や外気に慣れていない苗では、低温や風による植傷みも発生し、さらに活着が遅れます。そのため、田植え後は、速やかに入水し、５日間程度はやや深水で活着を促進しましょう。
- 除草剤散布後７日間は水田の水を外に出さないよう止め水管理とし、薬剤成分の流出を防止し、除草剤の効果を安定させましょう。

重要!! 2　活着後の水管理（分げつ期）

活着後は、２㎝程度の浅水管理に切り替え、
地温と水温の上昇に努め、分げつの発生を促進しましょう。

- 田面が露出しない範囲で浅水管理を行い、出来るだけ地温を上げて初期生育を促進させましょう。
- 入水を日中に行うと地温が低下するので、早朝または夕方に行い、日中は止め水に努めましょう。
  （日中に入水を行うと、特に水口付近の水温・地温が低下し、生育ムラの原因にもなります）
- ガスが発生した場合は、好天時に軽い田干しを行い、土壌への酸素供給とガス抜きを行い、根の健全化を図りましょう。※低温が続く場合や強風時のみ、保温のため深水管理（葉先が隠れない程度）にしましょう。

田植え後の水管理のイメージ



3 除草剤使用の注意点

- 除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。
  安定した効果を得るために、散布後５～７日間は止め水とし、落水やかけ流しはしない。

- 移植同時で除草剤を散布した場合、移植後必ず入水して、湛水状態を保ちましょう。

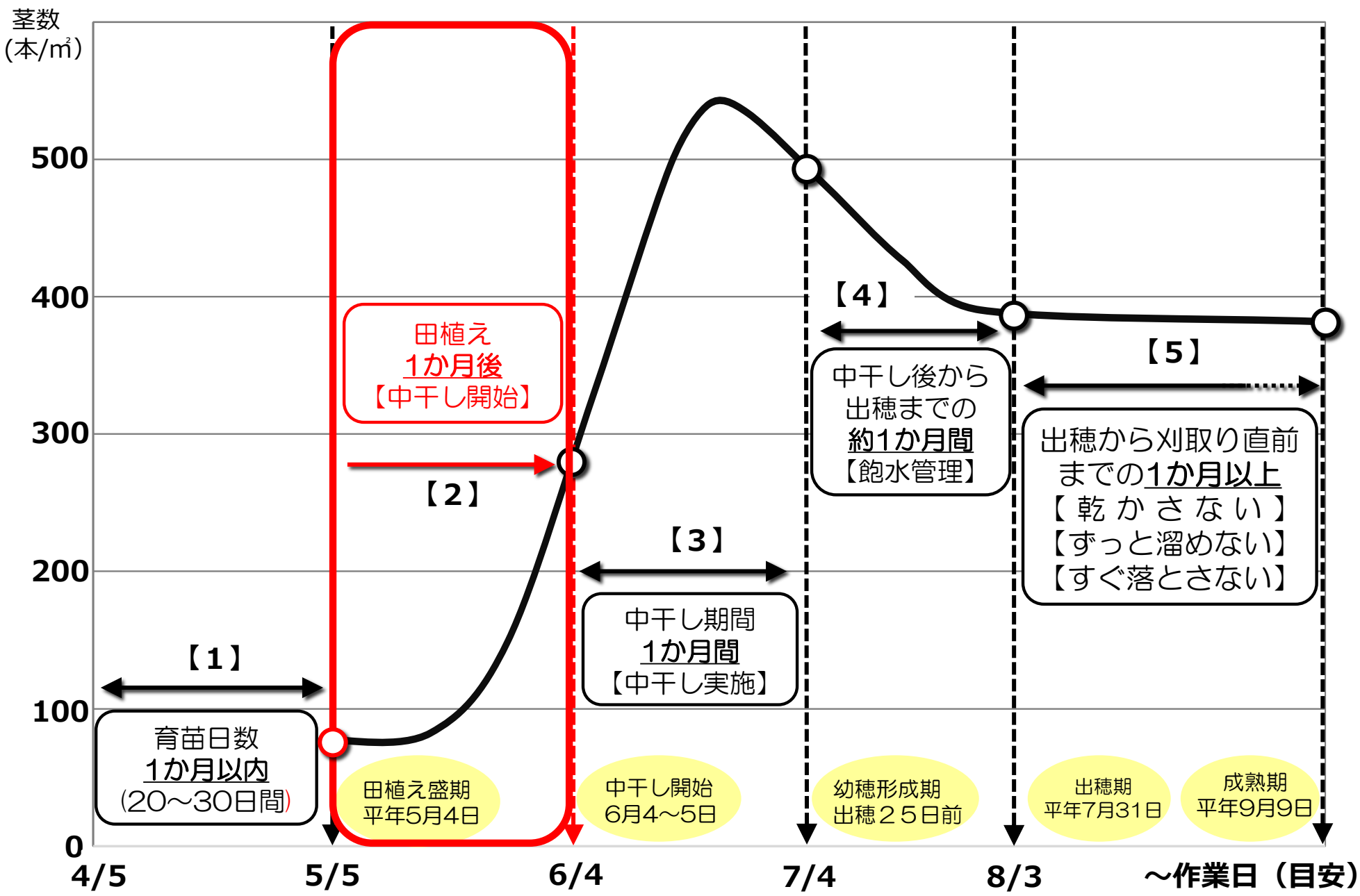
- 雑草は代かき直後から発生するので、水田に発生している雑草の種類や葉齢を確認し、
  除草剤の適用葉齢以内に散布しましょう。

例　バッチリ１キロ粒剤　移植同時～ノビエ２５葉期（移植後３０日まで）

この部分に注意！

- 除草剤散布後の補植作業は、補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。

田植え１か月後に中干しが開始できるよう、田植え後の水管理を徹底しましょう。

５つの１か月対策のポイント

【1】育苗日数は、１か月以内（20～30 日間）
【2】中干し開始は、田植え１か月後
【3】中干し期間は、１か月間（コシヒカリ）
【4】中干し後から出穂までは、約１か月間（コシヒカリ）の飽水管理
【5】出穂から刈り取り直前までの１か月以上は、
　①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない